

日本大学の目的及び使命

日本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしなひ、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。

日本大学は、広く知識を世界にもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする（学則第1章、第1節、第1条・第2条）。

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

工学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

基礎教育の徹底により、工学の基礎力を修得し、自主的に考察し判断できる発想力及び解析能力を培う。さらに、工業技術が社会と環境に及ぼす影響を理解することにより、高い倫理観をもって調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献できる人間性豊かな技術者を養成する。

また、教育研究活動を通じて地球環境の保護と健康的な生活に工学の立場から寄与し、その成果を社会と地域に還元する。

工学部（学士(工学)）の教育課程の編成及び実施に関する方針

工学部は、卒業の認定に関する方針に適う人材を養成するため、次表に基づき、4年間を通じて、体系的なカリキュラムを編成し実施する。また、各科目における教育内容・方法、成績評価方法及び評価基準をシラバス等で明示し、学生に周知した上で、実施する授業形態に即し、公正かつ厳正に評価を行う。

卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素(コンピテンス)	能力(コンピテンシー)	
豊かな知識・教養に基づく高い倫理観	工学技術が社会と環境に及ぼす影響を理解し、幅広い知識・教養に基づく高い倫理観を涵養することができる。	工学にかかわる分野で社会と環境に貢献できる工学的手法の習熟と、それらを駆使できる幅広い教養・科学の学修を遂行し高い倫理観を涵養することができる。
日本及び世界の現状を理解し、説明する力	グローバル化する社会における工学技術者として、多文化や異文化に関する知識や国際社会が直面している問題を理解し説明することができる。	日本大学並びに日本大学工学部の使命を理解し、自らの専門分野の日本および世界における工学的役割や諸問題を幅広く見渡し、説明することができる。

卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素(コンピテンス)	能力 (コンピテンシー)	
論理的・批判的思考力	体系化された継続的な学修により工学の基礎力を身につけ、工学技術者として論理的、批判的な思考をすることができる。	工学にかかわる分野の基礎となる、論理的・科学的・批判的思考の重要性や手法を、体系化された継続的な学修によって理解・習得し、専門分野における幅広い知識の吸収と高度な技術力を身につけ、発揮することができる。
問題発見・解決力	工学の基礎力に基づいて、自ら問題を発見し考察できる発想力と分析力を持ち、問題の解決策を提案できる。	持続可能な社会の実現に向けた、工学にかかわる幅広い分野の知識や技術の学修を通して、問題解決型や提案型の思考に接することで想像力を養い、豊かな発想と高度な分析を通して、自ら問題を発見し解決できる。
挑戦力	地球環境の保全や健康的な生活に工学の立場から寄与し、持続可能な社会の実現のために、あきらめない気持ちを持って果敢に挑戦することができる。	持続可能な社会の実現に向けて自ら考え行動し、工学にかかわる分野で社会に貢献できる専門知識・技術を体系的に身につけ、自らのキャリアデザインも含めて、新しいことに果敢に挑戦することができる。
コミュニケーション力	社会性を持つ工学技術者として、常に他者の意見に耳を傾け、自らの意見を相手に伝えることができる。	社会性を持つ工学にかかわる分野の技術者として、豊かな人間関係づくりの土台となる心身の健康、集団での行動、また多様なメディアを通してのコミュニケーション力を身につけ、自分と異なる立場の他者を理解・尊重しつつ、自らの考えを相手に伝えることができる。
リーダーシップ・協働力	工学技術者の立場から他者との協働を通して、リーダーとして他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	学修における協働作業のなかで、他者と協働し社会に貢献できる人間性豊かな技術者になる素養を身につけ、集団のなかでリーダーとして他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
省察力	自己を見つめ、自らの言動を謙虚に振り返り、工学技術者として自己を高めることができる。	工学にかかわる分野に関して、常に他者の意見や自己に対する評価を謙虚に受け止め、自らの学修や活動の達成度を謙虚に振り返り、新しい知識や技術の習得に励むことができる。

土木工学科 カリキュラム・ポリシー

土木工学科では、日本大学並びに本学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿う、土木工学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の項目にある教育を行うカリキュラムを編成します。

全学共通初年次教育科目を含む教養科目、自然科学科目・情報処理科目を通し、自主創造やロハスの工学に関する概念を理解し、豊かな教養と自然科学に関する基礎知識を身に付ける教育を行う。その上で、専門教育科目を通し、社会基盤と環境に関する土木工学の基礎知識を修得できる教育を行う。

外国語科目を通し、語学の基礎を学修すると共に、高い倫理観、安全性や自然との共生に関する基礎知識を養う科目を通し、国際社会や地域社会における多様な価値観を理解し、社会システムの基本とすべき事柄を修得できる教育を行う。

実験・実習科目や、ゼミナール、卒業研究等を通し、人間性豊かな技術者として、自主的かつ継続的に物事を考え、行動すると共に、他者とのコミュニケーションを図り、協働して課題解決にあたる能力を修得できる教育を行う。

土木工学の分野で求められるものづくりに対する基礎技術・技能を養う科目を通し、実践的技術者として多様な資格取得を目指すための基礎を修得できる教育を行う。